「グレートジャーニー」関野吉晴
前代未聞の大航海

水本博之監督 最新作
『丸木舟とUFO』
公開記念上映！

縄文号とパクール号の航海

水本博之 監督作品

Passage of Jomon and Pakur

監督・構成・編集 水本博之 ／プロデューサー 関野吉晴 ／音楽 ミツキシ／
出演 関野吉晴 渡部純一郎 前田次郎 佐藤洋平
ザイヌディン グスマン ジャビル イルサン ダニエル ラティフ サダル

ドキュメンタリー
映画

丸木舟とUFO

『縄文号とパクール号の航海』に続く、
美しい海と木船シリーズ最新作

そのかがやきは UFOか 家族のカタチか

『縄文号とパクール号の航海』『よるのたんけん』
水本博之 監督作品

出演：吉田友厚 吉田朱美 吉田みちる 吉田宇良 宮城茂正 新垣信彦 前田末和 河上眞一 比嘉靖弘 新城康弘
監督・撮影・編集・プロデューサー：水本博之
ラインプロデューサー：酒井貴史 / 音楽：岸剛 / 特別協力：新垣信表 遠藤薫 太田信吾
製作：Belumg Belumg Na Uai production / 〈2021/ 85min〉
文化庁「ARTS for the future!」補助対象事業

丸木舟 UFO

インド放浪と石垣島移住
開拓移民と壊滅的な台風
その殆どが高齢者の限界集落で
湧水に祈り継承し
時代錯誤の船大工となって
UFOを呼ぶ男と空を見つめる

だれもが去っていく限界集落で だれもが忘れつつある船大工になった

石垣島の北部・久宇良集落は美しい海に面し、20数名が暮らしています。高齢・過疎化が進むこの地も、60年以上前には開拓移民の集落として10倍以上の人で賑わっていました。しかし僻地であることや災害などで、多くの人が去ったのです。そんな久宇良に流れ着いたのが首都圏から移住した吉田友厚さん一家。インド放浪の後、運命に導かれ集落に根を下ろした夫妻ですが、人や仕事の少ない久宇良で生活するには、転職を繰り返せざるを得ませんでした。貧しい暮らしに追われるなか、36歳で出会ったのがサバニ〈本剥ぎ〉の船大工という仕事です。

静かに巻き起こっているサバニブーム そしてUFOブームも？夢いっぱいの集落の暮らし

サバニとは沖縄の海人が利用してきた木造船で、九州の杉材で作られています。作るには熟練の技術が必要ですが、木造のサバニに乗る漁師が殆どいなくなったため需要が減り、職人も育たなくなりました。それで貧しかった吉田友厚さんが弟子入りしたものですから、嘲笑されることもありました。しかし船大工を天職と信じ続けた結果、数年で生計を立てていくことに成功。手作りサバニのガイドツアーで静かなブームを起こしつつあります。
このようにサバニという夢の種が芽吹いてきましたが、友厚さんを支えてきたのは家族だけではありません。久宇良集落の先輩のお年寄りたちも、ずっと彼を見守ってきました。集落で生きる上で大切な約束事を伝え、叱咤し、笑いと悩みを共有してきたのです。近年の久宇良集落では、UFOを呼ぶ住民の方〈UFOおじさん〉を筆頭にみんなで空を見上げる、というローカルブームが発生しています。もしかしたら今日も吉田さんファミリーと集落の先輩は星空を眺めているかもしれません。

—そう、この映画は船大工と集落の人々の、夢と愛と笑いの詰まった暮らしを描いているのです。

—丸木舟の挑戦—

サバニ〈本剥ぎ〉は九州の杉板を貼り合わせて作られています。これは琉球王朝時代に資源保護のため、大木での造船を制限する法律が作られた事に端を発しています。

対して漁民たちは時代に適応して本剥ぎのサバニを開発し、海で暮らしてきました。しかし近年では石垣島の林業は下火となり、伐採時期を過ぎた老木が日光を奪い、若い木々の生育を阻むようになっています。

歪みが強く材として扱いづらい石垣島の老木〈リュウキュマツ〉を有効活用できないか。吉田さんは師匠も作ったことのない丸木舟の造船を決意し奮闘します。

文化庁「ARTS for the future!」
補助対象事業
ARTS for the future!

120kgの砂鉄
54mの大木
268日間の造船
コンパスを持たず
島影と星だけが頼り
風がないと
時速2kmしか進まない船
インドネシアから日本へ
3年をかけた
4700kmの旅路
旅はクルーたちの人生を
どう変えてゆくのか

縄文号とパクール号の航海

今回は若者とインドネシア人漁師と手作りカヌーで大海原に挑戦。星を頼りに航海する、グレートジャーニー関野吉晴さんたちの姿に手に汗握り、最後は拍手を送り、脱帽した。

— 北野武（映画監督・タレント）

関野さんは、読書しているような目で冒険をやってくれる。今度の旅は、海と人間に聴診器をあてているような顔だった。

— 糸井重里（コピーライター）

もともと古代人の航海についての興味で見たけれど、見終わったら関野氏が実践する超理想的な全人教育を、僕も一生徒として疑似体験させてもらったような……そんな映画でした。

— 会田誠（美術家）

関野さんは遊びの天才だ。手造りの丸木舟で、インドネシアの漁民の人たちと、はるばる日本まで航海するなんて少年の夢そのもの。俺もこんなことをしてみたい！……と、羨ましすぎて、平常心で観ていられなかった。

— 高野秀行（ノンフィクション作家）

とっても不思議な映画です。3・11の震災をはさんで、冒険の記録ではなく、命のつながりの深淵へと入っていきます。人間の意識は大自然と響きあっているのかなあ。関野吉晴さんが始めた航海の意味が……3年を経てやっと明らかにされました。ぜひ、若い人たちに観てほしいです。

— 田口ランディ（作家）

我々は地球という太古の昔から変わらない舟に乗り合わせていて、そこからすべてを授かり、生かされている。喜怒哀楽の波に揺られながら。縄文号とパクール号はまさに小さな地球。そこで暮らす意味を我々に問いかけてくれる。

— 林家たい平（落語家）

二艇が石垣島を前にしたとき、私はぞわぞわと感動し、泣きたくなった。作業効率も、航海の効率もめちゃくちゃ悪い。しかし、この旅に「効率」は意味をなさない。「馬鹿げたことを通して見えてくるものがある」という関野吉晴が見たものとは？ズルのないドでかい旅を見てほしい。

— 服部文祥（サバイバル登山家）

フィクションよりもドラマチックな旅の記録

『グレートジャーニー』の探検家関野吉晴が企画した途方もない旅…。それは「自然から素材を集めて鉄器を作り、その鉄器で船を作り、エンジンを使わずに島影と星だけを頼りにインドネシアから日本まで来る」というもの。関野の教え子である武蔵野美術大学の学生たちも参加し、船を作り上げるが、逆風では進む事ができないという欠陥を抱えていた。進まないときは歩くよりも遅く、停滞に停滞を重ねる船。価値観も宗教も年齢もバラバラの11人のクルー達は圧倒的な自然の力に翻弄されながら喜び、怒り、哀しみを分かち合いながら進む。そして3.11の東日本大震災の大災害を経て、旅は新たな意味を持ち始める。2010年に初上映された『僕らのカヌーができるまで』に描かれた造船から、その後の航海まですべての冒険を見つめた完結編。　2014年／122分

探検家・医師・武蔵野美術大学教授
関野吉晴

1949年生まれ。1999年植村直己冒険賞受賞。アフリカへ人類拡散の足跡を辿る旅と、日本列島にやってきた人々の足跡を辿る旅の、新旧グレートジャーニーを成し遂げる。2013年には国立科学博物館『グレートジャーニー展』の監修も務める。今回は自作の船で、星と島影だけを頼りに4700kmの航海に挑む。本作の企画・制作・出演。

http://jomon-pakur.info/　助成：文化庁文化芸術振興費補助金　映像協力：津波伝承館 大船渡津波伝承館

水本博之監督・海と船シリーズ最新作！

『丸木舟とUFO』

2022年9月
ポレポレ東中野 にて公開決定!!

↑↑↑
最新情報はこちら
『丸木舟とUFO』
公式サイト

『丸木舟とUFO』公開記念！

関連作『縄文号とパクール号の航海』夏休み限定上映＆出演者・監督トークを開催！

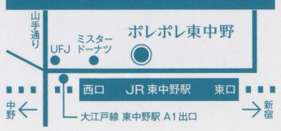
夏休みのさいごに、海と船シリーズ第1弾

『縄文号とパクール号の航海』

2022年
8/27（土）～9/2（金）連日17:30～

料金：一般1500円／大専シニア1200円
（お子様もご入場できます！小学生700円、未就学児無料！）

【トーク＆舞台挨拶】
8/27,28 関野吉晴〈探検家・医師〉
8/29～9/1 水本博之〈本作監督〉
＊イベントは予告なく変更・中止することがございます、ご了承ください。

詳細・チケット予約はこちら⇒
ポレポレ東中野 WEB サイト

ポレポレ東中野
03 3371 0088
pole2.co.jp